

卓球デフリンピックメダリスト 町へメダルを寄贈

今から32年前の1985年、ロサンゼルスで行われたデフリンピックでメダルを獲得した伊与喜地区出身の曾根恵子さんのご家族から、「町民の方々に勇気を与えたい」とメダルの寄贈がありました。



デフリンピックで獲得したメダル

恵子さんは3歳の頃に薬の副作用で難聴を発病した後、小学3年生の時に高知市中万々にある高知ろう学校へ転校し、最初は遊びで卓球を始めました。

卓球で世界を夢見たのは中学生の頃。高知県で開かれた全国ろう話者大会に参加した際、世界大会に出場したという人の話を聞き、「自分も世界で活躍したい」という思いが沸いたと言います。

20歳を前にして実業団からスカウトを受けた時には即答で返事をしたということ。その後成長を続け、1985年にロサンゼルスで行われたデフリンピックでは、ミックスダブルスで金メダル、女子ダブルスでは銀メダルを獲得しま

した。

自他ともに認める「明るく負けず嫌い」な性格で、小さい頃から何事にも挑戦し続けてきた恵子さんは、「耳が聞こえなくても続けていれば何だってできる。目標を持つことが大事」と自身のモットーを話しました。

今回のメダル寄贈は、そんな恵子さんの母である青木二三さんと弟の孝広さんが「メダルを寄贈することで、頑張ったらできるんだ」と町民の方の活力になれば」という思いに至った経緯があります。



手話教室に通う恵子さん(右奥)

最後に恵子さんに今後の目標を聞くと、「障がい者が自分のまちで暮らしやすくなること。いや、黒潮町だけではなく、日本がそうなれば」と力強い笑顔で語ってくれました。

※デフリンピック：4年に一度行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会。

平成29年度 踏切事故防止キャンペーン

土佐くろしお鉄道株式会社が安全で円滑な踏切交通と地域住民の意識向上の目的で、「踏切事故防止キャンペーン」を11月1日(水)から10日(金)まで実施しました。

キャンペーンの一環として踏切脱出訓練が11月1日(水)、土佐くろしお鉄道中村・宿毛線の松原踏切で開催され、入野小学校の1・2年生計35人が参加しました。

児童らは、自動車が踏切内で閉じ込められた際に車で遮断棒を押して脱出する方法や、自動車に設置されている発炎筒を点火して、運転手に危険を知らせる方法などを見学しました。

参加した弘田詩織ちゃんは、「踏切の棒を押して、車が出れるのが面白かったのと、踏切で気を付けようと思った」と話し、児童らは踏切への安全意識が高まった様子でした。(関連記事15ページ)



踏切脱出訓練の様子



炎管点火訓練

第23回潮風のキルト展

11月10日(金)～12日(日)、NPO 砂浜美術館主催「第23回潮風のキルト展」が入野松原で開催されました。

今回のテーマは「布を楽しむ」で、工夫を凝らした大小計64点の作品が県内外から集まり、入野松原とらつきよう畑に囲まれた会場に展示された作品を来場者は潮風を感じながら鑑賞しました。

会場では手作りの品や飲食を販売するお店のほか、オリジナルのハガキやTシャツ、エコバッグ作りのコーナーがあり、音楽会や野点なども楽しめました。

高知市よりメディアを見て来場した60代女性には、「キルトに海辺の太陽の光があたり、ステンドグラスのよう
で雰囲気が出ていて良いですね」と話していました。



光が当たるキルト作品



キルト展の様子